健康増進計画推進協議会	
協議事項１	資料１

（件　名）

第４次静岡県健康増進計画の進捗評価について

Ⅰ　大目標の進捗

○ **健康寿命の延伸**において、平均寿命の伸びを上回る健康寿命の伸び、及び**健康格差の縮小**において、平均自立期間の市町差の縮小があり、**大目標は順調に改善**した。

<table>
<tr><th>項　目</th><th>基準値</th><th>直近実績値</th><th>目　標</th></tr>
<tr><td rowspan="2">健康寿命の延伸
健康寿命</td><td>男性 73.45 歳
女性 76.58 歳
（2019 年）</td><td>73.75 歳
76.68 歳
（2022 年）
※最新値判明時期
2027 年 12 月</td><td>平均寿命の増加分を
上回る健康寿命の増加
（2035 年）</td></tr>
<tr><td colspan="3">健康寿命　男性＋0.30　　平均寿命　男性▲0.10
女性＋0.10　　女性▲0.25</td></tr>
<tr><td>健康格差の縮小
平均自立期間の市町間差</td><td>男性 4.0 年
女性 2.9 年
（2020 年）</td><td>3.8 年
2.2 年
（2023 年）</td><td>平均自立期間の
上位５分の１の市町の
平均の増加分を上回る
下位５分の１の市町の
平均の増加
（2035 年）</td></tr>
</table>

２　指標の進捗評価基準

第３次ふじのくに健康増進計画及び健康日本２１（第２次）（いずれも～令和５年度）の評価方法に準じて、以下の区分により進捗を評価する。

○ 評価は、目標値に達した、目標値に達していないが改善傾向にある、変わらない、悪化している等を５段階で評価する。

評価区分	評価の目安
A	目標値に達した
B	現時点で目標値に達していないが、改善傾向にある
C	変わらない
D	悪化している
E	評価困難（未公表）

○ １つの指標の中に複数の個別項目がある場合は、まず各項目に関してＡ，Ｂ，Ｃ，Ｄ，Ｅの５段階で評価し、その上で、Ａ＝５点、Ｂ＝４点、Ｃ＝３点、Ｄ＝２点と換算して平均を算出し（小数点以下四捨五入、Ｅは除く。）、目標項目全体を５段階で評価した。

例）男性　変わらない（Ｃ＝３点）
　　女性　改善傾向　（Ｂ＝４点）　｝　平均 3.5 点→Ｂ（４点）

3　指標の進捗状況

111（69%）の指標で目標達成又は改善がみられた。一方で、19（12%）の指標において悪化がみられた。

施策の柱	指標数	A	B	C	D	E
柱1 個人の行動と健康状態の改善	**71**	**20**	**25**	**5**	**8**	**13**
生活習慣の改善	25	8	7	2	3	5
生活習慣病の発症予防・重症化予防	35	9	13	2	3	8
生活機能の維持・向上	11	3	5	1	2	0
柱2 社会環境の質の向上	**16**	**1**	**12**	**0**	**2**	**1**
社会とのつながり・こころの健康	9	0	7	0	2	0
自然に健康になれる環境づくり	7	1	5	0	0	1
柱3 ﾗｲﾌｺｰｽｱﾌﾟﾛｰﾁを踏まえた健康づくり	**19**	**5**	**8**	**1**	**2**	**3**
柱4 実効性を高める取組	**55**	**15**	**25**	**8**	**7**	**0**
合計	161	41	70	14	19	17

評価区分

A　目標値に達した
B　現時点で目標値に達していないが、改善傾向にある
C　変わらない
D　悪化している
E　評価困難（未公表）

前年度から改善した主な指標について

項　目	基準値	直近実績値	目　標	R７ 評価	R８ 評価
1-1-4 飲酒 3-3　女性 妊娠中の飲酒割合 【出典：県健康増進課調べ】	2.6% （2022 年度）	1.7% （2025 年度）	0％ （2035 年度）	D	B
1-1-5 喫煙 3-3　女性 妊娠中の喫煙率 【出典：県健康政策課調べ】	1.5% （2022 年度）	0.6% （2025 年度）	0％ （2035 年度）	C	B
1-2-3 循環器病 心血管疾患による年齢調整死亡率 （人/人口 10 万人） 【出典：人口動態統計特殊報告】	男性 60.8 女性 30.1 （2022 年）	男性 64.0 女性 28.6 （2024 年）	減少 （2029 年）	D	B
1-2-6 CKD 4-1-6 地域別の推進 年間の新規透析導入患者のうち 糖尿病性腎症の患者数 【出典：日本透析医学会調査】	442 人 （2022 年）	400 人 （2024 年）	391 人以下 （2029 年）	D	B
2-1-4 こころの健康 経済団体と連携した ゲートキーパー養成研修会参加者数 【出典：県精神保健福祉室調べ】	53 人 （2021 年度）	79 人 （2025 年度）	毎年度 150 人 （2027 年度）	D	B
2-1-1 地域とのつながり・社会参加 すこやか長寿祭参加者数 【出典：県福祉長寿政策課調べ】	4,832 人 （2022 年度）	5,174 人 （2025 年度）	5,400 人 （2026 年度）	D	B
4-3 デジタル技術・ナッジ等の活用 ICT 技術やナッジを活用した 取組の収集と共有 【出典：県健康政策課調べ】	0 回 （2022 年度）	1 回 （2025 年度）	毎年度 1 回 （2035 年度）	C	A

悪化した主な指標（D評価）について

項　目	基準値	直近実績値	目　標	今後の対応等
1-1-1 栄養・食生活 1-3-2 フレイル 3-2 高齢者 低栄養傾向（ＢＭＩ20以下）の高齢者（65～74歳）の割合 【出典：特定健診データ分析】	18.6% （2020年度）	21.0% （2023年度）	13%未満 （2035年度）	低栄養に関する個人の理解が乏しいこと、支援体制不足等の影響が考えられる。健診や通いの場等を活用し、高齢期や高齢期手前の世代に対し、適切な栄養摂取についての普及啓発を行うほか、関係機関と連携し体制整備を図る。
1-1-2 運動 3-1 こども 学校の体育以外での１週間の運動時間 【出典：全国体力・運動能力、運動習慣等調査　】	男子510分 女子330分 （2020年度）	男子474分 女子289分 （2025年度）	男子560分 女子350分 （2025年度）	学校における教育活動の見直しやコロナ禍で外出を控える生活様式の定着、情報機器を使用する時間の増加など、運動習慣の変化により運動時間は減少傾向。引き続き、体力アップコンテストしずおかの活用促進等により、児童生徒の運動習慣の定着を図る。
1-1-3 休養・睡眠 睡眠で休養が十分とれている者の割合(40～74歳) 【出典：特定健診データ分析】	67.9% （2020年度）	65.5% （2023年度）	70% （2035年度）	ライフスタイルの変化等の影響が考えられる。健診や保健指導を通じ睡眠の重要性について啓発を図る。
1-2-1 高血圧 高血圧症有病者の割合 【出典：特定健診データ分析】	男性41.0% 女性30.3% （2020年度）	男性44.9% 女性32.8% （2023年度）	男性35.6% 女性26.5% （2035年度）	令和２年度(コロナ禍)以降増加傾向。高齢化やライフスタイルの変化等の影響が考えられる。減塩や野菜・果物の摂取、定期的な血圧測定等の個人の生活習慣改善に関する普及を図るほか、関係機関と連携し、発症・重症化予防を図る。
1-2-4 糖尿病 糖尿病有病者の割合 【出典：特定健診データ分析】	男性13.3% 女性 6.3% （2020年）	男性14.0% 女性 6.5% （2023年）	男性13.3% 女性 6.3% （2035年）	高齢化やライフスタイルの変化等の影響が考えられる。糖尿病の発症を予防する適切な生活習慣等の知識を普及するほか、生活習慣病対策を効果的に推進できる人材を育成する研修会等を実施する。

項　目	基準値	直近実績値	目　標	今後の対応等
1-2-7ＣＯＰＤ ＣＯＰＤによる死亡率 （人/人口 10 万人） 【出典：人口動態統計】	13.7 （2022 年）	15.0 （2024 年）	10.0 （2035 年）	高齢化やライフスタイルの変化等の影響が考えられる。街頭キャンペーン等で COPD に関する知識の普及啓発を図るほか、ハイリスク者に対する受診勧奨を支援する。
1-3-4 熱中症 熱中症による搬送件数 【出典：消防庁統計資料】	1,688 人 （2022 年度）	2,232 人 （2025 年度）	減少 （2035 年度）	急激な気候変動の影響が考えられる。熱中症の知識を普及するほか、熱中症警戒情報発令時は、関係機関へ迅速に伝達し、SNS や市町による同報無線にて県民に周知する。
2-1-1 地域とのつながり・社会参加 シルバー人材センター 就業延人数 【出典：県産業人材課調べ】	1,984,472 人 （2022 年度）	1,761,062 人 （2025 年度）	毎年度 235 万人 （2026 年度）	定年延長等による新規会員数の減少が考えられる。就業開拓推進員を配置し、新たな就業の開拓を進める。
2-1-2 共食 日ごろ「こども１人」で朝食を食べている割合（小５） 【出典：朝食摂取状況調査】	27.7% （2022 年度）	29.8% （2025 年度）	22.0% （2035 年度）	ライフスタイルの変化等の影響が考えられる。食育情報誌への掲載や食育の日を活用し、家庭内における共食について普及啓発を図る。

【柱1】
個人の生活習慣と健康状態の改善

中柱1 生活習慣の改善
中柱2 生活習慣病（NCDs）の発症予防・重症化予防
中柱3 生活機能の維持・向上

項　　目	基準値	直近実績値	目　標	評価区分
ＣＯＰＤによる死亡率 （人/人口 10 万人） 【出典：人口動態統計】	13.7 （2022 年）	15.0 （2024 年）	10.0 （2035 年）	D
心血管疾患による年齢調整死亡率 （人/人口 10 万人） 【出典：人口動態統計特殊報告】	男性 60.8 女性 30.1 （2022 年）	64.0 28.6 （2024 年）	減少 減少 （2029 年）	B
脳卒中による年齢調整死亡率 （人/人口 10 万人） 【出典：人口動態統計特殊報告】	男性 41.3 女性 20.1 （2022 年）	男性 37.1 女性 20.0 （2024 年）	男性 32.4 女性 17.0 （2029 年）	B
高血圧症有病者の割合（%） 【出典：特定健診データ分析】	男性 41.0% 女性 30.3% （2020 年）	44.9% 32.8% （2023 年）	35.6% 26.5% （2035 年）	D
糖尿病有病者の割合（%） 【出典：特定健診データ分析】	男性 13.3% 女性　6.3% （2020 年）	14.0% 6.5% （2023 年）	13.3% 6.3% （2035 年）	D
年間の新規透析導入患者のうち、 糖尿病性腎症の患者数（人） 【出典：日本透析医学会調査】	442 人 （2022 年）	400 人 （2024 年）	391 人以下 （2029 年）	B
熱中症による搬送件数 【出典：消防庁統計資料】	1,688 件 （2022 年）	2,232 件 （2025 年）	減少 （2035 年）	D
特定保健指導実施率（%） 【出典：特定健診法定報告】	26.0% （2021 年）	28.5% （2023 年）	45%以上 （2029 年）	B
特定健診受診率（%） 【出典：特定健診法定報告】	58.8% （2021 年）	61.2% （2023 年）	70%以上 （2029 年）	B
睡眠で休養が十分とれている者の割合 （40～74 歳） 【出典：特定健診データ分析】	67.9% （2020 年度）	65.5% （2023 年度）	70% （2035 年度）	D
学校の体育以外での 1 週間の運動時間 【出典：全国体力・運動能力、運動習慣等調査】	男子 510 分 女子 330 分 （2020 年度）	男子 474 分 女子 289 分 （2025 年度）	男子 560 分 女子 350 分 （2025 年度）	D

主な取組

＜COPD＞

世界禁煙デー・禁煙週間に街頭キャンペーンを実施（健康増進課）

静岡市・協会けんぽ・いきいきフォーラム 21 と合同で、静岡駅で啓発物（チラシ、ポケットティッシュ、マスク）を 1,200 部配布し、ブースではのぼり旗の設置、ポスターやチラシを掲示しました。また、配布したチラシに COPD について掲載、周知しました。



＜循環器疾患＞

脳卒中、心臓病等の普及啓発（疾病対策課）

世界脳卒中デー（10 月 29 日）や健康ハートの日（８月 10 日）を中心に循環器疾患の正しい知識の普及啓発を図りました。
また、浜松医科大学医学部附属病院に設置された脳卒中・心臓病等総合支援センターと連携し、循環器疾患の相談支援を行いました。



＜高血圧・糖尿病＞

しずおか健幸惣菜を活用した取組の実施（健康増進課）

生活習慣病の予防や改善のため、しずおか健幸惣菜を活用した食環境の向上の取組として、給食施設指導を通じて事業所給食等での健幸惣菜の提供支援のほか、小売店と連携し既存の商品でバランスの取れた組み合わせ例を紹介する取組を開始しました。



＜熱中症＞

熱中症対策に関する知識の普及啓発（健康増進課）

熱中症に関する啓発を図るため、熱中症対策啓発ポスターや HP、県公式 YouTube「しずおかメディアチャンネル」を通じて知識を普及し、熱中症警戒情報発令時は、関係機関へ迅速な伝達を行い、市町による同報無線を通じて県民に周知をしました。



＜特定健診＞

特定健診受診率向上トライアル事業の実施（健康政策課）

特定健診の受診率向上のため、受診勧奨を行う受託業者の成果に応じて、委託費を支払う仕組みであり、令和８年度から県内６市町と県が共同発注者として事業を開始しています。

＜休養・睡眠＞

多様な人材活躍推進事業の実施（産業人材課）

誰もが働きやすい職場環境整備に取り組む企業を支援し、働き方改革を推進するため、ダイバーシティ経営導入推進アドバイザー派遣、ダイバーシティ経営導入推進セミナー等を実施しました。

＜身体活動・運動＞

体力アップコンテストの開催（健康体育課）

こどもが学校生活を通じて運動やスポーツに親しみ、運動習慣の確立と運動習慣を身につける活動を推進するため、小学生を対象とした体力アップコンテストを開催しました。



【柱2】
社会環境の質の向上

中柱1 社会とのつながり･こころの健康の維持向上
中柱2 自然に健康になれる環境づくり･基盤整備

項　　目	基準値	直近実績値	目　標	評価区分
ふじのくに健康づくり推進事業所数 【出典：県健康増進課調べ】	6,839 事業所 （2022 年）	8,102 事業所 （2025 年）	15,300 事業所 （2035 年）	B
日ごろ「こども１人」で朝食を食べている割合（小５） 【出典：朝食摂取状況調査】	27.7% （2022 年度）	29.8% （2025 年度）	22.0% （2035 年度）	D
経済団体と連携した ゲートキーパー養成研修会参加者数 【出典：県精神保健福祉室調べ】	53 人 （2021 年度）	79 人 （2025 年度）	毎年度 150 人 （2027 年度）	B
シルバー人材センター就業延人数 【出典：県産業人材課調べ】	1,984,472 人 （2022 年度）	1,761,062 人 （2025 年度）	毎年度 235 万人 （2026 年度）	D

主な取組

＜健康経営の推進＞

健康づくり活動に関する知事褒賞（健康増進課）

健康づくりに積極的に取り組む企業・事業所の増加を図るため、従業員等の健康増進に関する活動に積極的に取り組み、今後もその活動が期待できる団体を表彰しました（令和７年度 14 団体）。



＜家庭における共食＞

ママごはんへの掲載や情報発信の実施（健康増進課・健康体育課）

家庭における共食を推進するため、毎月 19 日の食育の日や食育月間を活用し、みんなで食べる機会や料理等の食に関する体験をする機会の設定など、普及啓発を図りました。

＜こころの健康＞

経済団体等と連携した研修会の開催（障害福祉課）

事業所におけるメンタルヘルス対策の充実のため、経済団体等と連携して企業の人事労務担当者等を対象に「職場におけるメンタルヘルス向上研修」を開催し、その中でゲートキーパーに関する研修を実施しました。

＜高齢者の社会参加の場の充実＞

セミナーの開催やシルバー人材センターの健全な運営を支援(福祉長寿政策課・産業人材課)

高齢者の多様な就労や社会参加を支援するため、多世代を対象に地域の生活支援の担手確保に関するセミナーを開催しました。また、シルバー人材センターの健全な運営を支援しました。

【柱3】
ライフコースアプローチを踏まえた健康づくり

項　　目	基準値	直近実績値	目　標	評価区分
低栄養傾向（ＢＭＩ20以下）の高齢者（65～74歳）の割合 【出典：特定健診データ分析】	18.6% （2020年度）	21.0% （2023年度）	13%未満 （2035年度）	D
妊娠中の飲酒割合 【出典：県健康増進課調べ】	2.6% （2022年度）	1.7% （2025年度）	0% （2035年度）	B
妊娠中の喫煙率 【出典：県健康政策課調べ】	1.5% （2022年度）	0.6% （2025年度）	0% （2035年度）	B
すこやか長寿祭参加者数 【出典：県福祉長寿政策課調べ】	4,832人 （2022年度）	5,174人 （2025年度）	5,400人 （2026年度）	B

主な取組

＜健康増進課＞

食に関する課題の早期発見に向けたミニ講話の実施（健康増進課）

高齢者の低栄養について、関係者の理解促進を図るため、食べるから繋がる地域包括ケア推進業務において、関係者連絡調整会議の開催や関連職種にミニ講話を実施しました。



＜こども＞

薬学講座の開催（薬事課）

将来の喫煙を予防する取組として、学校薬剤師等により県内の全ての対象校に薬学講座を開催し、たばこの害等について、知識の普及を図りました。



＜女性＞

母子手帳交付時の情報提供（こども未来課）

妊婦における不適切な飲酒を予防するため、母子手帳交付時に、妊娠中や授乳中の飲酒の影響について記載がある母子手帳副読本を配布し、情報提供を行うよう市町に働きかけを行いました。



＜高齢者＞

すこやか長寿祭の開催（福祉長寿政策課）

高齢者の地域における健康や生きがいづくりを促進するため、高齢者が安心してスポーツや文化活動等に参加できるように、しずおか健康長寿財団とすこやか長寿祭を開催しました。

【柱4】

実効性を高める取組

項　　目	基準値	直近実績値	目　標	評価区分
ICT 技術やナッジを活用した取組の収集と共有 【出典：県健康政策課調べ】	0 回 （2022 年度）	1 回 （2025 年度）	毎年度 1 回 （2035 年度）	A
12 歳児でむし歯がない者の割合 ＜賀茂健康福祉センター＞ 【出典：学校歯科保健調査】	79.8% （2021 年度）	85.8% （2025 年度）	90% （2035 年度）	B
習慣的喫煙者の標準化該当比 ＜熱海健康福祉センター＞ 【出典：特定健診データ分析】	男性 109.1 女性 196.2 （2020 年度）	男性 106.3 女性 179.0 （2023 年度）	男性 100 女性 100 （2035 年度）	B
40～60 歳代の肥満者の割合（BMI25 以上） ＜東部健康福祉センター＞ 【出典：特定健診データ分析】	男性 38.9% 女性 22.8% （2020 年度）	男性 38.6% 女性 22.7% （2023 年度）	男性 30%未満 女性 15%未満 （2035 年度）	B
高血圧症有病者の割合 ＜御殿場健康福祉センター＞ 【出典：特定健診データ分析】	男性 48.4% 女性 38.3% （2020 年度）	男性 49.1% 女性 38.1% （20203 年度）	男性 42.5% 女性 34.2% （2035 年度）	C
がん検診精密検査受診率 ＜富士健康福祉センター＞ 【出典：地域保健・健康増進事業報告】	胃がん 92.9% 肺がん 75.0% 大腸がん 79.0% 子宮頸がん 74.5% 乳がん 96.8% （2020 年度）	胃がん 89.2% 肺がん 88.4% 大腸がん 75.2% 子宮頸がん 89.4% 乳がん 87.0% （2022 年度）	全て 90%以上 （2029 年度）	C
運動習慣がある者の割合 ＜中部健康福祉センター＞ 【出典：特定健診データ分析】	男性 29.3% 女性 23.9% （2020 年度）	男性 30.7% 女性 24.3% （2023 年度）	男性 35% 女性 35% （2035 年度）	B
身体活動が 1 時間未満／日の者の割合 ＜西部健康福祉センター＞ 【出典：特定健診データ分析】	男性 58.6% 女性 59.5% （2020 年度）	男性 56.2% 女性 57.0% （2023 年度）	男性 50%以下 女性 50%以下 （2035 年度）	B

主な取組

＜地域別の取組①＞

歯周病予防の啓発（賀茂健康福祉センター）

歯周病予防のために、賀茂歯科医師会、管内市町と連携して、自宅で行うセルフケアと歯科医院でのプロケアの重要性を啓発するリーフレットを作成しました。



＜地域別の取組②＞

禁煙外来・禁煙支援薬局名簿を更新（熱海健康福祉センター）

禁煙を希望する人が禁煙できるように禁煙外来･禁煙支援薬局名簿を更新し、情報提供をしました。また、「こどもから大人へのメッセージ事業」を小学校１校で実施しました。



＜地域別の取組③＞

生活習慣病・フレイル予防対策（東部健康福祉センター）

脳血管疾患による死亡、高血圧予防対策として、野菜を手軽に毎日の食事に取り入れられるよう、市町の栄養士がおすすめするレシピを集め、「かんたん野菜マシマシレシピ集」を作成しました。



＜地域別の取組④＞

血圧測定イベント等の実施（御殿場健康福祉センター）

生活習慣病の発症予防のため、働く世代の生活習慣の現状を分析し、対策について検討しました。また、様々な機会を捉え、推定野菜摂取量の測定を行い、野菜摂取を促したり、血圧測定イベントを実施し、生活習慣の改善を促しました。



＜地域別の取組⑤＞

健診受けましょうキャンペーンの実施（富士健康福祉センター）

がん検診及び精密検査受診率の向上によるがん死亡率を抑制するため、健診（検診）受けましょうキャンペーン等を通じて、がん検診受診率向上のための啓発をしました。



＜地域別の取組⑥＞

健康経営に関する支援と普及啓発（中部健康福祉センター）

事業所の健康経営を支援し、働く世代の運動習慣の定着や飲酒習慣の改善、減塩等の普及を図るため、給食施設や労働基準協会、商工会議所・商工会等と連携し、「職場対抗ウォーキングチャレンジ　しだはい GO！」を開催しました。



＜地域別の取組⑦＞

運動の促進をテーマとした研修会・連絡会の開催
（西部健康福祉センター）

運動や身体活動を増やすため、市町の連絡会を開催し、事業連携をテーマに講義、情報交換を行いました。また、事業所や市町を対象に、事例発表や運動の実技も含めた研修会を開催しました。

